

第7回ビジネスロー講演会

2017年11月2日（木）14：00～ 於法文1号館25番教室

神戸製鋼のデータ改ざんやタカタのエアバック欠陥の事件に見られるように、国内に起因する法律紛争が、国際的様相を帯びるのが当り前の時代です。しかし、法環境や国民の法意識は、国によって大きな違いがあります。

そのような中で、日本の企業・役員を代理する弁護士として、事件処理にあたり、何を考え、どのような判断で行動したかを具体的事件を通してお話しし、皆様と議論してみたいと思います。

素材として、中国とアメリカという対照的な法環境の国の事件を選びました。中国については、「日中の国境を跨ぐ倒産処理」、アメリカについては「アメリカ司法省による、役員個人に対する反トラスト法捜査」です。どうぞ御参加下さい。

小杉 丈夫

国際 紛争処理の 現場から

—日本の弁護士として何を考えるか—

小杉丈夫 弁護士
(弁護士法人松尾綜合法律事務所)

- I はじめに
 1. 私の経歴
 2. 国際性ある案件を扱うにあたって重要なこと

- II 具体的事件の検討
 - II-1 日中間に跨る倒産処理
 1. 事件の概要
 2. 前提
 3. 問題点
 4. 株式譲渡による中国子会社処理

 - II-2 アメリカ司法省による反トラスト法捜査と日本人役員の弁護
 1. 事件の概要
 2. 前提
 3. 問題点
 4. アメリカの刑事手続
 5. 受任と弁護
 6. 会社による司法取引の個人役員への影響
 7. 犯罪人引渡条約と国際刑事警察機構(ICPO)の Red notice
 8. 日本人のアメリカ刑務所服役と日本文化

- III. まとめ
国際通用力のある法律家を目指して

<お申し込み方法>

下記の商事ホームページよりお申し込みください。受講料は無料です。

<https://www.shojihomu-portal.jp/seminar?seminarId=4498475>

主催 東京大学大学院法学政治学研究科附属ビジネスロー・比較法政研究センター
後援 東日本旅客鉄道株式会社
協力 株式会社 商事法務